

3. ロシアという世界

そして、私が体得できた中で何より一番大きいのは、この一年半の間に生活してきたロシアの肌感覚です。その内、ロシア人の民族性、一般ロシア人の現状についてご紹介します。

ア) ロシア人の民族性 — ヨーロッパとアジアの間 —

ロシアは多民族国家であり、様々な文化的背景を持った人たちが集う場所です。また、移民労働者の人口流出が 1150 万人（世界銀行、2008 年）あるものの、ロシア国内への人口流入も 1210 万人（同）存在します。（たとえば街で 3K 労働をしているのは主に中央アジア系の人々ですが、こうした構図は 3840 万人（同）の人口流入のあるアメリカの状況と似ているといえるかもしれません。）

そんな同国民の 80% を占めるという民族的な意味でのロシア人は、人間味あふれる人々です。最初は一見怖そうに見えますが、一度心の壁を越えた途端、時に有難迷惑な程色々世話焼いてくれます。心と心で触れようとする彼らの姿勢からは、ふっと心が温かくなることが多く、今の日本（特に都市部）では忘れられてしまっている何かを思い出させてくれます。また、彼らのメンタリティーは、何か日本人に通じるところがあります。外見はヨーロッパ人に近いのですが、話していると不思議と親近感が湧きます。地図で示されている通り、彼らは「ヨーロッパとアジアの間」であり、彼らもそれを自覚しています。

尚、ロシアのみならず旧ソ連圏の人々は日本に対して総じて非常に良い印象を持っており、手放して称賛してくれます。私はこれまで「日本はすごい」「日本人を尊敬している」と数えきれない程言われてきました。これだけ親日である地域も珍しいのではないのでしょうか。

イ) 知られざる一般ロシア人の現状 — 不満の募る国民 —

金融危機の影響があったものの、マクロ的な視点からは BRICs の一角として経済発展目覚ましいと世界に認識されている国家ロシアですが、その実、国民の大半がその“成長”の恩恵に与えているわけではありません。これはここに住んでみて実感した大きな発見です。

残念ながら、現在ロシア人の一般家庭（除く一部の裕福家庭）は、非常に苦しい生活を強いられています。汚職により経済発展の恩恵は一般市民に届かないばかりか、給与所得が頭打ちである一方で年率 10% を超えるともいわれるインフレーションが人々

を苦しめています。ロシア第二の都市サンクトペテルブルク市に限っていえば、60% の住民が経済的にギリギリの生活をしているというデータもあります。この状況を一般市民が打破する大きな手段となりうる政治への働きかけは、現受益者である層による法的拘束（政党新設が事実上不可能であること、投票率 51% 以上の原則が撤廃されたこと等）から事実上不可能となっています。一般人の大部分はこの様な状況に飽き飽きし、無気力感すら漂っています。現在の国民の移民願望は 1 千万人（ロシアの人口は 1 億 4 千万人）とロシア革命時・ソ連崩壊時の数を超え、過去最大です。国民の不満は非常に危険なレベルにまで達している、といっても過言ではありません。

4. おわりに

— 草の根の視点も忘れずに、 旧ソ連圏と日本の発展のために —

上記の様に、今回の一年半のロシア語語学研修で、学生時代までは意識すら全くしてこなかったことが身近になり、知り、更に興味が湧くようになりました。語学研修に派遣されたことも含め、これらは全てアメリカ留学時代に体得した「挑戦する姿勢」から得られたものです。2 月末をもって語学研修が終了しモスクワでの実務研修に移るため、本寄稿は今回で最終回となりますが、引続き「挑戦する姿勢」を忘れずに、ビジネスの観点から日本、旧ソ連各国、世界のために、そして何より自分自身の成長のために、精進する所存です。その際、相対するであろう国の実力者層のみならず、最後の項で言及した一般のロシア人という草の根の視点をも常に留意し、多くの人々に貢献していくことを、ここに誓います。

上記「挑戦する姿勢」を得るに至ったアメリカ留学は、松本輝彦先生からのご指導への感謝無くしては語れません。末筆ではありますが、2005 年に早稲田大学での授業“Academic Skills for Study Abroad”でお世話になって以来、2005 年～2006 年のアメリカ留学時、2007 年のカメルーンインターン時、そして今回の 2009 年～2011 年ロシア留学時と、計 14 回もの本誌寄稿という非常に貴重なチャンスを与えて下さった松本先生及び康子様に感謝の念を申し上げます。

今後の INFOE 誌の益々の発展を、一読者として心よりお祈り申し上げております。

（尚、本記事の見解は筆者が勤務する企業の見解とは一切関係無く、私個人の考えを述べたものである事を念の為に申し添えておきます。服部）

服部 祐也（はっとり ゆうや）

ロシア連邦・サンクトペテルスブルグ国立大学留学中

2003 年 4 月早稲田大学政治経済学部入学。2005 年 9 月～2006 年 6 月アメリカ合衆国 California Polytechnic State University San Luis Obispo 留学。2007 年 9 月早稲田大学政治経済学部卒業。2008 年 4 月より総合商社勤務。現在、ロシア語研修生としてサンクトペテルブルグ国立大学に留学中。



服部くんが「挑戦する姿勢」をアメリカ留学で身につけて以来、学生生活・就職活動、そして今回のロシア語研修まで、私は彼の成長ぶりを見せてもらう幸運に恵まれました。

折にふれてこのコラムへの寄稿を通して自分の生活や考え方を振り返り、それが彼自身の成長の糧になったと信じます。早稲田の後輩たち、さらには海外・帰国子女にも、エッセイ・文章を書くことにより、心の成長を目指してほしいと思います。服部くん、長い間の寄稿に感謝！